



青少年赤十字岐阜

JUNIOR RED CROSS GIFU 2022



日本赤十字社 岐阜県支部
Japanese Red Cross Society

〒500-8601 岐阜市茜部中島 2-9
TEL 058-272-3561
<https://www.jrc.or.jp/chapter/gifu/>



赤十字の活動は、皆様からお寄せいただく活動資金によって支えられています

～3つの実践目標～

- ・ 生命と健康を大切にする「**健康・安全**」
- ・ 人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する「**奉仕**」
- ・ 広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う「**国際理解・親善**」



青少年赤十字 創設100周年に向けて

岐阜県青少年赤十字指導者協議会

会長 平山 義浩 (笠松町立 下羽栗小学校 校長)

令和3年6月に全国指導者協議会総会・研修会に参加させていただく機会を得ました。令和3年度は、コロナ禍の開催であるため、Web会議で行われました。どんな状況においても、価値ある「青少年赤十字の活動」の歩みを止めてはいけないという関係者の熱意と創意工夫により開催されたこの総会・研修会は、全国からの参加者が活発な意見交換を行い、一人一人が大きな成果を得て幕を閉じることができました。有意義な時間を全国の方々と共有できたことに感謝申し上げます。

さて、令和4年度は青少年赤十字創設100周年の節目を迎える年となります。これを機に、「赤十字の精神を再確認する」こと、「世界の平和と人類の福祉に貢献する」こと、「みんなで100周年を祝う」こと、「全国の青少年赤十字メンバーと情報交換する」こと、「自分たちの活動を活発にする」こと、「楽しく有益な活動を実施する」ことを推進していきます。すでにその大きな節目を迎えるための取組は、スローガン「未来のあなたへ、やさしさを。」のもとに全国各地で着々と進められています。

少年赤十字(現在の青少年赤十字)の始まりは、100年前にヨーロッパを中心とした多くの人々に多大な被害を及ぼした第一次世界大戦がきっかけでした。現在のコロナ禍は、全世界の人々に大きな被害をもたらしているという点で類似している状況にあります。だからこそ、今、子どもたちが未来を切り開いていくために、自分たちのできることは何かを問いかけ、青少年赤十字の3つの態度目標である「気づき」「考え」「実行する」を実践へとつなげ、その実行力を遺憾なく発揮させるときであると考えます。子どもたちの力は無限であり、どんな困難をも乗り越えていくたくましさを兼ね備えています。我々は、その可能性を信じ、小さな一歩を踏み出せるよう背中を押す役目があり、その中核となるのが学校であると感じています。今後、様々な機会において青少年赤十字の指導理念を意識し、学校運営に反映させていかなければならないと決意を新たにしました。

最後になりましたが、細部にわたり温かなご配慮とご支援いただきました日本赤十字社岐阜県支部をはじめとする関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、青少年赤十字活動がより一層広まり、活発に展開されることを祈念いたします。



令和4年度は青少年赤十字創設100周年

赤十字社について

赤十字は、アンリー・デュナン(スイス人:第1回ノーベル平和賞受賞者)が提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、1864年に誕生しました。現在では世界192の国と地域に広がる赤十字社・赤新月社のネットワークを生かして活動する組織です。

日本赤十字社はそのうちの一社であり、1877年の西南戦争をきっかけに佐野常民らが中心になって設立されました。そして、現在では、世界各国の赤十字と手をつなぎ、赤十字の精神である「人道・博愛」の使命を実現するために、主に以下の①～③の柱のもと、国内外における災害救護をはじめとし、苦しむ人を救うために幅広い分野で活動しています。

- ①いのちを救う 国際活動、国内災害救護活動、医療事業、血液事業、救急講習等
- ②せいかつを支える 社会福祉事業、赤十字奉仕団
- ③ひとを育む 青少年赤十字、看護師等養成

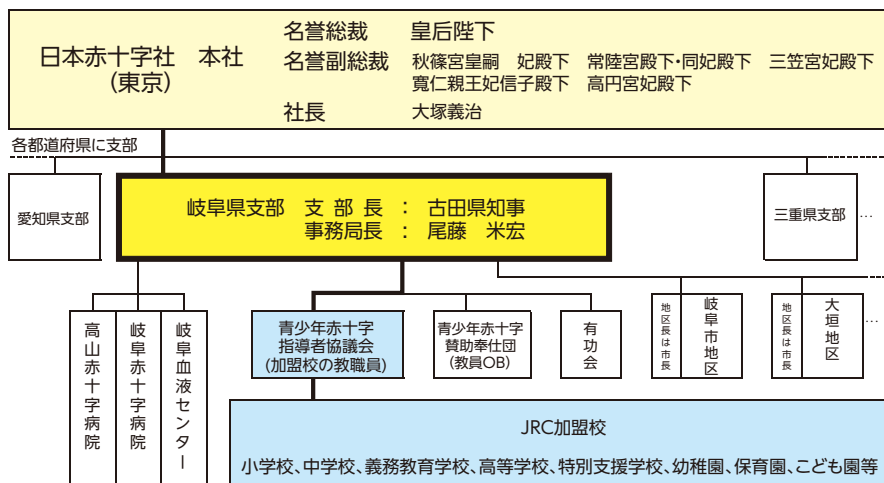


青少年赤十字(JRC:Junior Red Cross)について

- 青少年赤十字**は、第一次大戦(1914～1918)時にカナダ・アメリカ・オーストラリアの児童・生徒たちがヨーロッパの戦場となった国々の少年・少女や傷病者を慰めるためのクリスマスカードや手紙を贈ったほか、学校には文具、傷病者には下着や副木・つえなどの援助を行ったことに始まります。
- 第一次世界大戦終戦の翌年**(1919.2.1)、アメリカ・イギリス・イタリア・日本・フランスは、第一次世界大戦の経験から、「赤十字が戦時の救援ばかりでなく、平時においても、災害救護、衛生、社会福祉、看護、青少年赤十字などの事業を行うべきである」と赤十字社連盟の創設を呼びかけました。そして、第2回赤十字社連盟総会(1922)において、各国の赤十字社に対し、青少年赤十字の活動を積極的に行うよう勧告されました。
- 日本においては**、日本赤十字社や文部省のバックアップを受け、現在の滋賀県守山市立守山小学校(当時、守山尋常高等小学校)校長が中心となって、**大正11年(1922)に日本で最初の少年赤十字団が結成**されました(世界においては、14番目の加盟になります)。その翌年、大正12年9月1日(1923)に起こった関東大震災での被災者に対し、食糧や文房具などの支援を行ったことが最初の活動とされています。
- 昭和23年(1948)**には、活動するメンバーが小学校高学年から中学校、高等女学校、青年学校にも拡大されてきたこともあり、「**青少年赤十字**」と名称が統一されました。
- 現在では**、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、将来を担う青少年が赤十字のことを正しく理解し、進んで赤十字運動に参加してもらいます。そして、青少年の一人一人が世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、①「**健康・安全**」②「**奉仕**」③「**国際理解・親善**」の3つを「**実践目標**」として掲げ、学校(園)や日常生活の中で、望ましい人格と精神を自らつくりあげることを目的としています。
- 岐阜県においては**、令和3年度末現在、**661校(園)**が青少年赤十字に加盟しており(次頁参照)、大変多くの子どもたちが青少年赤十字のメンバーとして活躍しています。
- 日本赤十字社岐阜県支部においては**、教職員対象の指導者講習会や児童生徒対象のリーダーシップ・トレーニング・センターの実施、国際交流事業などを実施して人材育成を行うと共に、防災教育推進校、研究推進モニター校、青少年赤十字100周年事業推進校を指定し、学校における青少年赤十字活動の推進のお手伝いをさせてもらっています。

青少年赤十字の目指しているもの

- ①いのちと健康を大切にする力を育てる
- ②社会的に弱い立場にある人たちの手助けができる力を育てる
- ③世界が抱える問題に関心をもつ力を育てる



1 青少年赤十字の県内加盟状況について

(1)加盟状況

令和3年11月末までに、県内のすべての公立・私立の小学校、中学校が加盟していただき加盟率100%になりました。
 今後は、高等学校への加盟の働きかけや、青少年赤十字に関わる活動内容の充実を目指していきます。

青少年赤十字 加盟校(園)		幼稚園 こども園等	小学校			中学校			義務教育	高等学校		特別支援学校		総 数
			公立	公立 (分校)	私立	公立	公立 (分校)	私立	公立	公立	私立	公立	県立 (分校)	
令和3年	全体数		359	1	2	175	1	9	3	70	20	22	1	661
	加盟校数	48	359	1	2	175	1	9	3	28	12	22	1	
	加盟率		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	40%	60%	100%	100%	

(2)R3年新規加盟校(全17校(園))

幼稚園(3園)			小学校(1校)
飛騨学園美鳩幼稚園	上楽学園長森幼稚園	上楽学園ながもり第二幼稚園	関市立武儀小学校
中学校(6校)			
岐阜市立草潤中学校	多治見西高等学校附属中学校	富田学園岐阜東中学校	
廣池学園麗澤瑞浪中学校	美濃加茂学園美濃加茂中学校	西濃学園中学校	
高等学校(7校)			
岐阜県立羽島高等学校	岐阜県立加茂高等学校	岐阜県立揖斐高等学校	富田学園岐阜東高等学校
大垣日本大学高等学校	廣池学園麗澤瑞浪高等学校	石井学園啓晴高等学校	

2 各種会議・研修会の実施状況

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、多くの会議や行事が中止やWeb形式での開催となりました。Web形式のため十分に深まらないこともありましたが、参加していただいた方々の感想を伺うと、得るものがあり参加して良かったということでした。

令和3年度			
本社主催	JRC支部担当者説明会	Web会議	(4/9)
	JRC全国指導者協議会総会・研修会	Web会議	(6/29)
	全国JRC賛助奉仕団協議会総会	Web会議	(7/17)
	JRCリーダートレセン指導者養成講習会	Web会議	(6/5)
	JRC研究会(指導主事)	Web会議	(9/30)
	指導者協議会会長・支部担当者研究会(ブロック)	Web会議	(6/11)
	JRC創設100周年直前令和3年度JRCスタディー・プログラム(新規)	Web会議	(12/25,26) 泊無し
	JRCスタディ・センター	中止	
支部主催	岐阜県JRC賛助奉仕団第1回役員会	対面	(6/22)
	岐阜県JRC指導者協議会第1回役員会	対面	(5/23)
	岐阜県JRC賛助奉仕団総会	書面表決	(7/5)
	岐阜県JRC指導者協議会総会	書面表決	(7/5)
	岐阜県JRC指導者協議会第2回役員会	書面表決	(R 4.3/2)
	岐阜県JRC賛助奉仕団第2回役員会	書面表決	(R 4.2/24)

3 授与関係

(1) 金色有功章 (加盟20年以上でJRCに積極的に取り組んでいただいた学校(園))

令和3年度
大垣市立上石津中学校(26年)

(2) 銀色有功章 (加盟15年以上でJRCに積極的に取り組んでいただいた学校(園))

令和3年度			
岐阜市立鷯小学校	本巣市立外山小学校	海津市立今尾小学校	岐阜市立本荘中学校
岐阜市立厚見小学校	本巣市立土貴野小学校	垂井町立表佐小学校	海津市立平田中学校
各務原市立緑苑小学校	本巣市立一色小学校	郡上市立高鷲北小学校	可児市立蘇南中学校
山県市立富岡小学校	北方町立北方西小学校	可児市立今渡北小学校	御嵩町立上之郷中学校
瑞穂市立中小学校	海津市立大江小学校	高山市立清見小学校	認定こども園庭田保育園

4 助成事業について

(1) 令和3年度の助成事業

令和3年度の防災教育推進校、研究推進モニター校、JRC100周年事業推進校の取組については、赤十字ニュースや岐阜県支部ホームページなどで紹介させていただいています。ここでは、一部の活動を紹介させていただきます。



① SDGsに貢献する東濃檜×青少年赤十字活動 東白川村立東白川中学校(7月20日)

東白川中学校において、村の伝統産業である林業を学ぶ、全校生徒参加のふるさと学習が開催されました。

本活動では、はじめに地元のNPO法人の青空見聞塾理事長・村雲辰善氏から「森林は気候変動を緩和するほか崖崩れなどの災害を防止し持続可能な社会に貢献していることや、日本は世界有数の森林大国でありながら木材の自給率が低いこと、林業の機械化が進んでいるが後継者不足に悩んでいることなど、森林という循環型資源を支える林業が抱える問題」について説明を受けました。

その後、「青少年赤十字マーク」が刻印された地域の特産品である東濃檜の端材に、丁寧にヤスリがけや柿渋を塗り、記念のコースターを作りました。

生徒の一人は、「林業は地域の産業だけれども、普段は木と触れ合うことが少なかったです。今日は素敵なコースターを作ることができてとても楽しかったです。」と感想を話してくれました。

東白川中学校の生徒の皆さんは、この活動をとおりて森林の重要性に気づき、改めて地元の山を守っていく大切さについて考えられたのではないのでしょうか。



▲村雲氏の説明を真剣に聞く生徒



▲丁寧な作業で記念コースターを完成

② 京都大学防災研究所と高山市立栃尾小学校が防災教育でコラボ!(10月18日)

栃尾小学校では、過去に校区で起こった大規模な土石流災害を教訓に、京都大学防災研究所(以下京都大学)から雨量観測システムなどの機材の提供を受け、毎年4年生の児童が、毎日の雨や空・山の観察(ぼうさい空日記)を行うことで、児童一人一人の雨に対する感覚を養い、雨の危険を知る活動に取り組んでいます。

本活動は、今年で6年目となり、児童から家族、地域へと気象に関心を持ち、詳しくなる人が広がることで、地域の防災力向上にもつながっているほか、児童が毎日記録する『ぼうさい空日記』の情報は、京都大学の研究にも役立てられています。10月18日に開催された令和3年度3回目の京都大学とのコラボでは、「防災クロスロードゲーム」の学習が行われ、教科書から学んだ知識だけではなく、半年間のぼうさい空日記の活動の経験を踏まえた意見交換や、京都大学宮田准教授や香川大学竹ノ内講師とのぼうさい空日記についての話し合いから、子どもたちの雨に対する感覚が養われてきていることが伺えました。



▲防災空日記(タブレット)

③ ワクワクなかよしサーキット 養老町立笠郷小学校(11月9日)

笠郷小学校の1年生と令和4年度入学予定の園児の皆さんが4つの遊び(ハンカチ落とし、だるまさんが転んだ、花いちもんめ、的当て)をとおして交流しました。

交流会では、体育館に置かれた大型のスポーツタイマーがピーと鳴ると、1年生が園児の手を優しく握って、それぞれの遊びに連れて行ってあげました。そして、遊びの

場面では、1年生の子が遊び方の説明や、上手に出来るように園児に声をかけながら楽しそうに活動していました。

この交流活動を通して、1年生の子はお兄さんお姉さんとしての自覚を深めただけでなく、JRCで願っている「思いやりの心」や「優しい気持ち」が育まれたと思います。



▲堂々と司会進行ができました。



▲園児と楽しく遊びました。

④ ～気づき・考え・ドローン～ 恵那市立上矢作小学校(12月2日) (地区区分交付金を活用した実践)

上矢作小学校では(5,6年生23名)、ドローンを活用した実践をする中で、子供たちに気づき・考え・実行する力を育てています。

12月2日の授業では、自分たちが住んでいる地域が抱えている課題について意見を出し合い、改めて様々な課題がある事に**気づき**ました(お店が少ない、農作物が野生動物の被害を受けやすい...)。そして、それらの課題解決のためにドローンをどのように活用できるかを**考え**、タブレットを使って解決策を発表しました。

その後、体育館に移動しドローンを飛ばすためのプログラミングを、実際にドローンを飛ばしながら、とても楽しそうに学びました(**実行する**)。

ドローンは、人間が行けない場所でも自由に飛んで行き、高所からの状況観察や救助活動に役立つなど幅広く活躍することができます。上矢作小の児童の皆さんは、色々な場面で活用が期待される未来のテクノロジーを使って学んでいます。



▲自分たちの住む町の課題は…。



▲こうするとうまく飛ばはずだよ。

(2) 令和4年度の助成事業

① 防災教育推進校

青少年赤十字の実践目標の一つである「健康・安全」のもと、防災教育をととして自然災害から青少年の健康と安全を守り、また、学校、地域、家庭における防災意識を高めるため、「まもるいのちひろめるぼうさい(冊子)」を活用した実践や、先進的・他校の参考となるような取り組みを行ってもらえる学校を指定し、活動支援をします(1校20万円の活動助成金×2校)。

学校名	テーマやねらい等
山県市立 大桑小学校	地域・家庭・学校で子どもたちを守り切る。
高山市立 清見中学校	防災教育をととして、校区の地域が求める「地域・家庭・学校がひとつになって『真に強い子』を育てるわがふるさと清見」をめざす。

② 研究推進モニター校

青少年赤十字の実践目標の「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」に関わる様々な魅力ある活動が、加盟校においてさらに充実していくことや、県内に広まっていくことを願い、本県支部では、毎年加盟校の中から研究推進モニター校を募集しています。最近では、60校を超える学校から応募いただいています。それらの学校の中から、青少年赤十字指導者協議会役員や賛助奉仕団役員によって承認された学校(園)に対し活動助成金を交付しています(1校10万円の活動助成金×25校以内)。

No.	学校名	テーマやねらい等
1	岐阜市立 鶯小学校	「気付き、考え、実行する」営みを通して自分を磨き、「ゆたかでたくましい鶯の子ども」を育成する
2	岐阜市立 長森西小学校	広い視野で、自分と仲間、地域、世界を見つめ、自ら行動できる力の育成を目指して、学年発達に応じた、福祉活動・奉仕活動・交流活動・環境保護活動を推進する。
3	羽島市立 桑原学園	学校・家庭・地域の三者で学び合い、気付き、考え、実行する防災学習
4	山県市立 伊自良中学校	自ら考え動き、身を守る生徒の育成
5	瑞穂市立 西小学校	「地震・防災」自分・家族・地域の人たちの命を守る方法を考えよう
6	本巣市立 弾正小学校	わたしたちがつくる持続可能な世界
7	笠松町立 笠松小学校	生命と健康を大切に、みんなの幸せを考えて、豊かな心でやり抜く子の育成
8	岐南町立 北小学校	自分のいのちは自分でまもる 防災・減災に関する正しい知識を高め、自分で考え・判断し素早く行動できる。
9	大垣市立 中川小学校	英語でコミュニケーション能力を伸ばし、国際社会で活躍できる児童の育成
10	垂井町立 府中小学校	福祉に携わる方と触れ合うことを通して、福祉に関心をもって、かわり方を学び、「皆が住みよい府中」について発信することができる
11	池田町立 宮地小学校	自他の生命を尊重し、日常生活を安全に過ごすことの出来る子の育成
12	郡上市立 相生小学校	身の回りにある危険に気付き、自ら考え判断し、命を守る行動を取る子を育てる
13	郡上市立 那瑠小学校	「自分や周りの人の命と健康を守ることで出来る児童の育成」
14	郡上市立 大中小学校	ふるさと郡上(白鳥)を愛し、地域と共に生き・高まる学校
15	郡上市立 北濃小学校	自分の身体と命は自分で守る意識を高める教育の推進
16	美濃加茂市立 伊深小学校	子どもたちが「安心して学ぶことができる 安全な学校」を目指すために、すべての命を守り切ることができるような「防災教育」を実践する
17	可児市立 土田小学校	国際教育における日本語指導の在り方
18	七宗町立 神淵小学校	児童の心身の健康・安全にかかわる危機管理体制や救急体制を確立するとともに自らの健康を管理する力を育成する。
19	七宗町立 上麻生小学校	「命と平和・友情」の大切さについて主体的に考える子の育成
20	八百津町立 八百津小学校	思いやりを育む人道教育
21	御嵩町立 上之郷小学校	自分の命は自分で守る子
22	土岐市立 妻木小学校	自ら考え、健康で安全な生活をしようとする子の育成
23	恵那市立 恵那西中学校	基本を身につけ 粘り強く やりぬく生徒
24	下呂市立 竹原小学校	自分で考え、判断し、行動する力を育むシェイクアウト訓練

③ JRC100周年事業推進校(園) (令和4年度で終了)

令和4年度に青少年赤十字創立100周年を迎えることを節目に、①青少年赤十字活動の一層の理解促進・普及 ②豊かな心をもった青少年赤十字の育成強化 ③学校現場から選ばれるJRC活動の見直しと普及といった目標達成に向け、積極的に協力していただける学校を指定させていただきました(1校20万円の活動助成金×5校)。

校(園)名	テーマやねらい等
岐阜市立 加納幼稚園	自分を愛し、自分を大切に、自分らしさを出せる子を育てるために ～幼児期の性教育を通して～
上楽学園 長森幼稚園	強い体をつくって正しい暮らしをめざそう
岐阜市立 長良東小学校	命を守る ～自分・家族・地域の命を守れるように～
郡上市立 大和西小学校	「今私たちにできること」高齢者と共に生きる大和町づくり
揖斐川町立 谷汲中学校	変化に立ち向かい、自らの手で未来社会を逞しく創造できる人材の育成を目指す

⑤ その他事業

(1) キックオフの会の様子

「防災教育推進校」「研究推進モニター校」「JRC100周年事業推進校」の指定や青少年赤十字の新規加盟校になったことなどをきっかけに、園児・児童生徒や教職員のみなさんを対象に、「赤十字の内容」、「青少年赤十字の実践目標や態度目標」、「青少年赤十字のメンバーである自分たちは、具体的にどのような活動に取り組みばよいのか」等を、校長先生や担当の先生から、全校集会やお昼の放送時にお話をさせていただきます。

こういった機会を「**キックオフの会**」と称し、多くの加盟校(園)で実施され、赤十字や青少年赤十字への関心や意識が高められることを願っています。

令和3年度は、新規加盟校や助成を受けられた学校で実施され、約6,300名を超える児童生徒や教職員の皆さんが赤十字について学んだり、青少年赤十字について考えたりするきっかけをもつことができました。



<キックオフの会のコマ> ※日赤岐阜県支部のHPもご覧ください。

(2) 青少年赤十字マーク入りテントの寄贈

令和2年1月～12月末までの間に青少年赤十字に新規加盟した学校(園)を対象に、青少年赤十字マーク入りのテント(3m×3m)を寄贈しました。

令和3年7月19日(月)に新規加盟校の代表校として高山市立栃尾小学校において贈呈式を行いました。



▲高山市立栃尾小学校体育館にて

(3) 岐阜県赤十字有功会 図書贈呈式

子どもたちに豊かな心を育んでもらうことや、赤十字について知ってもらうことを目的として、岐阜県赤十字有功会から令和3年度新規加盟校(園)等へ、図書と図書券を贈呈しました。

令和4年2月16日に受領校を代表して関市立武儀小学校で贈呈式を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの蔓延状況を鑑み、開催を中止しました。

※赤十字有功会とは、日本赤十字社の活動支援を行っていただくための有志の方々による支援団体です。



▲小学生向け図書



▲中高生向け図書

6 青少年赤十字作品コンクール ～2022年はJRC創設100周年～

令和2年度は、コロナウイルス感染拡大のため夏季休業日が少ない学校が多かったため作品募集を行いませんでしたが、令和3年度募集を行ったところ、例年のように多くの皆さんに参加をしていただきました。

令和3年度は、作品募集ができましたが、コロナウイルス感染拡大防止のため、表彰式が行えませんでしたので、県内8カ所で作品展示を行わせていただきました。

書や絵画の作品づくりに参加していただいた皆さん全員に参加賞をお渡しし、入賞された皆さんには賞状と副賞をお渡しさせていただきました。

令和4年度も作品を募集させていただく予定です(7月～9月初)。多くの方の応募をお待ちしております。

		書の部		絵画の部	
		参加者数	参加学校数	参加者数	参加校・園数
総合計		1,598	140	116	34
内訳	幼稚園			34	1
	小学校	897	78	76	29
	中学校	646	56	3	3
	高等学校	53	4	0	0
	特別支援学校	2	2	3	1

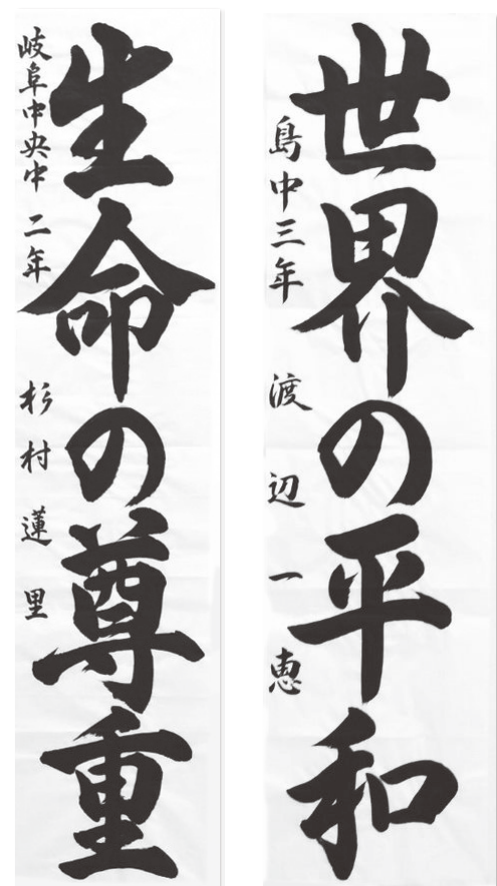


▲イオンモール各務原店内 展示会場



▲下呂市星雲会館内 展示会場

<令和3年度 入賞作品代表>



岐阜県知事賞
中2 杉村蓮里 さん

岐阜県議会議長賞
中3 渡辺一恵 さん



岐阜県知事賞
小5 渡辺心結 さん



岐阜県議会議長賞
小6 中村つむぎ さん



岐阜県教育委員会教育長賞
小5 横井俊太 さん



岐阜県教育委員会教育長賞
小1 武山青生 さん



青少年赤十字創設 100 周年事業のロゴマーク

青少年赤十字は、2022年に創設100周年を迎えることを記念して、100年続く青少年赤十字のイメージをデザイン化しました。世界性と活気をイメージして、ピンク色の英文字で「JUNIOR RED CROSS 100th ANNIVERSARY」と記しました。

2022年4月1日 発行

[発行・編集] 日本赤十字社岐阜県支部
〒500-8601 岐阜市西部中島2-9
TEL 058-272-3561